

みなとまちプロジェクト



清水港開港120周年記念で「想い」を「カタチ」に。

みなとまちプロジェクトでは、港町を中心とした地域の活性化を目的に活動を行なっています。私達は、調査や議論を重ねて、各地域の数多くの魅力＝ブランディングエッセンスを活かした街のリノベーションに取り組んでいます。

今年度の舞台は、昨年につき静岡県清水です。清水は富士山と駿河湾に囲まれた自然豊かな土地です。この清水の発展に貢献したのが清水次郎長です。彼はお茶産業と清水港の発展に寄与しました。その後、国際港となるため整備された港湾線のおかげもあり、清水港からのお茶の輸出量が日本一となります。そして、伊豆石製の巨大な倉庫群の建設も相まって、清水はさらに港としての役割を強めていきます。このように清水には輝かしい歴史があり、長い歴史の中で紡がれてきた遺産があります。

今年度、私達はこの歴史の中のブランディングエッセンスをもとに、倉庫群を活かしたイベントや、富士山や駿河湾が織りなすトワイライトを形に残すフォトジェニックコンテスト、次郎長商店街の手書きマップ作り、旧港湾線を活用したスローモビリティの創出、「お茶が人と人の懸け橋になる」というTEAISMの概念を発展させたお茶カフェ、お茶畑が広がる伝統的な風景を守っていくためのオリジナルメニューなど様々な提案をしました。そして、これらを清水港開港120周年である2019年10月に、ミナトブンカサイというイベントで実現します。ここでは、ブランディングエッセンスを昇華させ街の核となるべきものを作るきっかけとして、文化・風景・人・音楽・交通の5分野に絡んだ7つのアプローチから、他の5大学、静岡市、地元の方々と協力し、大規模かつ色濃い企画を行う予定です。

今後はこの企画の一つ一つを深めていけるよう他団体との連携を深め、清水が持続的に発展できるよう尽力して参ります。

■学生:7名 (山崎美祈 渡邊武瑠 鈴木佳織 鈴木珠水 土田晟瑚 中島怜音 西藤悠馬)
担当教員:志村真紀

■連携・協力:常葉大学、東京大学、九州大学、茨城大学、静岡理工科大学、静岡市、株式会社 鈴与、株式会社 ボクラノマチ
モビリティデザインの実践PJ、静岡県立大学